いたる通信 49 真夏号

ITARU CENTER

目次 contents

01 あけぼの の作業所
02 目黒本町福祉工房 すまいる高井戸 いたる相談室 クローバー
03 阿佐谷福祉工房 GH事業部 サポートウイズ
04 Puku Puku さんまるしぇ 法人本部

ご利用者様とのふれあいの一コマ（右側：施設長　荻野　路子）

「視点」と「選択」

あけぼの の作業所
施設長　荻野（おぎの）　路子（みちこ）

はじめまして。あけぼの の作業所の荻野路子と申します。私は今まで高齢者介護の世界で12年程、福祉の仕事に携わって参りました。

個人的には、重度身体障害・難病・知的障害の方々やご家族、また、日々支援されている職員さんとの関わりはございましたが、専門性という点に関してはまだまだ未熟な面もございます。

「専門性のない私が、あけぼの の作業所でできること?」と考えた時、2つの考えが頭に浮かびました。

ひとつ目は「視点」です。「専門性がない」⇔「先入観がない」⇔「一般の方の視点がある」ということに気づきました。利用者様との長い時間をかけた関わり、関係性の中、日々の支援が積み重なっていくということは、「人間関係も含めた安心できる環境ができる」という良い点と、「馴れた人間関係」が形成されていくという危険性の抱き合わせです。「普通にみておかしいことはおかしい」ということを職員に伝えていくという事は非常に大切なことだと考えております。

ふたつ目は「選択性」です。飲み物を買う・食事を注文する・読みたい本を選ぶ・やりたい仕事を選ぶ…等、私たちの、日々の生活は「選択」の連続です。利用者様を取り巻く環境が「措置から契約」へと変わり、「選ぶ自由」が保証されている今、もっと積極的に「選べる」機会を提供し、「選ぶ」ことの楽しさや難しさを体験して頂ける機会を増やしていきたいと考えております。少しずつ成長を続けるあけぼの の作業所を、今後とも宜しくお願い申し上げます。

いたるセンターの人財登用について

いたるセンターの人財採用の特長は、ダイバーシティ戦略です。

「職員の多様性を尊重して受け入れ、能力をフルに発揮していただく」ため、今後も効果的な人財登用にチャレンジしていきたいと思っています。

自主生産品カウンター

いたる賛助会入会のご案内
「いたる賛助会」では「いたるセンター」の活動を支援していただける方を募集しています。
「幸せな地域社会を作りたい」がこの会設立の趣旨であります。
年会費　1口5千円（何口でも可）
郵便振り込み　00110 7 12892
（問）3392-7346　事務局　山本まで

パン工房Puku Puku

新商品、続々登場!!

店長　高木（たかぎ）　ともこ　知子

特例A型支援事業として再スタートをきりましたパン工房プクプクは、6月20日に開店4周年を迎える事が出来ました。

地元荻窪の名店を紹介する雑誌「荻窪Walker」にも掲載され、新たなお客様の増加も期待される中、既存のお客様に飽きられないよう新商品の開発にも注力しています。

「クランベリークリームチーズカンパーニュ　200円」やメンバーさんが企画した「山ノ内さんの焼きカレーパン　160円」等、毎月新商品を企画開発し、既存のお客様にもご満足頂くようご提案させて頂いております。

山之内さんの焼カレー
160円

厨房、二次加工の体制が安定してきましたので、しばらくお休みしていた引き売りも再開できる見通しもたってきましたので、外販にも力を入れ、新たなお客様獲得に努めます。

クランベリークリームチーズ
カンパーニュ　200円

SunMarche（さんまるしぇ）

おかげさまで2周年！

店長　鈴木（すずき）　たけし　健

6月25日に開店2周年を迎えました。

本年4月から買上客数も毎月2000人を超え、パン、弁当の主力食品だけでなく目黒本町福祉工房の作るTシャツ、バッグ等の雑貨も安定的に売れるようになってきました。

お客様の世代も開店当初は比較的ご高齢なお客様が目立っていましたが、最近はお子様連れのお客様も目立つようになりました。

こうしたお客様に対応する為、2周年のイベントとして店内で人形劇を開催する等、更にお客様の支持を得られるような活動を続けながら着実に成長している事を実感しています。

毎月開催している各施設との共同企画のフェアもファンの作りを助けてくれる大きな催しとなっています。

目先の売上に一喜一憂することなく、今後も来店客数の拡大に努めて参ります。今後ともよろしくお願いします。

法人本部より

表彰や感謝状をいただきました

6月7日、阿佐谷福祉工房の職員である齋藤直人さんと藤木佑介さんが、区立杉並会館・末広の間で行われた表彰式で、「優良安全運転者・荻窪警察署署長表彰」を授与しました。就労継続支援B型で公園清掃や室内清掃などを指揮する齋藤直人さんは、「公園清掃では、安全運転はもちろん、駐停車の問題があります。近隣の方々や公園を利用される方々に迷惑をかけないよう、気を配ることも大切です」と語ってくれました。

また、創立20周年を迎えた杉並区ソフトバレーボール連盟様からは、日頃から阿佐谷福祉工房やあけぼの の作業所が大会等に協賛し、その普及と発展に貢献したことにより、法人に感謝状が贈られました。

「いつでもどこでも誰もが楽しめる簡単な生涯スポーツ」としてしたしまれているソフトバレーボールは、小学校の授業としても採用されるなど、ファン層の裾野が広がっています。

いたる広報委員
発行責任者＝谷山　哲浩
社会福祉法人いたるセンター
〒167-0032
東京都杉並区天沼1-15-18
TEL：03-3392-7346
FAX：03-3391-8039
Eメール：info@itarucenter.com
HP：http://www.itarucenter.com/
発行日／平成25年7月1日

ご意見・ご感想がございましたら、上記のFAX、Eメール等でお声をお寄せ下さい。
いたる広報委員まで。

杉並区ソフトバレーボール連盟より感謝状

荻窪警察署での表彰の様子

目黒本町福祉工房

赴任のご挨拶

施設長　阿久津（あくつ）　庄司（しょうじ）

4月より目黒本町福祉工房の工房長に赴任いたしました阿久津庄司と申します。職歴は無駄に長いのですが（28年目）、ずっと杉並区内での勤務であり、目黒での勤務は初めてということで、新人職員のような新鮮な気持ちと不安な気持ちが思い切りシェイクされた状態で4月1日を迎えました。

ではこの不安感はいったいどこから来るかと考えた時に、まず土地勘がないということもありましたが、何と言っても私が利用者様の名前を憶えていないという不安と、逆に利用者様が私を認識していただいていないという不安でした。

しかしながら、そのような不安は、当然の如く時の流れに身を任せていれば、心広い利用者様ばかりですから、少しずつですが自然と認知していただけるようになりました。また私自身も、何とかほとんどの利用者様をお名前で呼べるようになってきました。

言うまでもありませんが、目黒本町福祉工房は区立施設です。

この区立施設としての「使命」、更に元来存在していた2つの施設の「重み」、そして目黒本町福祉工房として生まれ変わってからの「期待」、そんな様々なものを背負いながらも一歩ずつ確実に前進していけたらと思っています。

新施設長の阿久津です。よろしく！

だるまの自主生産品が人気です！

杉並区障害者地域相談支援センター高井戸（すまいる高井戸）

活動内容について

センター長　春山（はるやま）　陽子（ようこ）

杉並障害者福祉会館3階にオープンいたしました障害者地域相談支援センター高井戸（すまいる高井戸）では、高井戸福祉事務所エリアの方のサービスに結びつけたり、人間関係などの悩みや生活に密着した相談、看護師による健康相談を行ったりしています。

杉並区内のピア相談員もスタッフとして加わり、当事者の経験を生かした相談も行っています。

現在、知的障害の方のピア相談員はおりませんが、平成25年度より育てていく予定です。

また、杉並区内全域の障害のある方が参加できるグループ活動や講座も開催しています。7月は主に精神障害の方のナチュラルカフェ、誰でも参加できる茶話会（調理実習）や簡単にあみものができるあんみる会、お茶会、在宅の方向けのグループワーク（ストロベリーカフェ）などを予定しています。

さらに、高井戸エリアの区民の方に向け、5月に発達障害の基礎講座を開催し、今後も継続して開催していく予定です。

すまいる高井戸では、こうした活動に興味をお持ちのボランティアの皆様も募集しています。

これからも、すまいる高井戸をどうぞよろしくお願いいたします。

茶話会のメニュー決めの様子

クローバー事業部

法人施設公開日の報告

所長　影山（かげやま）　仁美（ひとみ）

5月11日（土）に天沼の屋舎公開にクローバーも参加させてもらいました。

あいにくの雨ではありましたが、クローバーを見学して下さった約40名の方へ、事業の説明をさせていただくことができました。

ご覧いただいた中でも最新の機械浴槽や広くて明るい室内に好感を持ってくださったようです。

今回、初めて短期入所施設を見学したという方もいらしたので、今後も見学日を設けていきたいと思います。

施設公開の様子

阿佐谷福祉工房

ひき売りに活路を！

施設長　佐藤（さとう）　章（あきら）

この5月より本格的に拠点売りの出張販売や引き売りを開始しました。イベント販売や区役所販売等の限られた場所では、売上も伸びない状況の中で売上アップを図るため地域に自ら飛び込み当施設の自主生産品をアピールし顧客を増やすことにしました。

スタッフが営業を行ない、障害者への社会貢献などを理解していただき快く軒先を貸していただいている企業や商店、他施設の方々に深く感謝しています。

販売している商品は、当施設の主力商品であるクッキー・ラスクに防虫スプレー、箸やすのこ等のヒバ製品など受注作業のエコグッズの委託商品からあけぼの作業所のタイカレー、プクプクのパンなど法人の取り扱っている商品も一緒に販売することにより、多品種販売を実現し、販売のボリューム感をだしました。

販売を始めてまだ、日は浅いですが、「今まで区役所等で購入していたのが身近で販売していただけるようになって買いやすくなった。」「こんな商品もあったんだ。」など、地域の方々の好意的なお言葉をいただき、引き売りを始めよかったなと思う瞬間の一つでもあります。

ご利用者様も雨の日、風の日、寒い日、暑い日にかかわらずの販売ですが、施設から外に出ての活動に意欲をだし元気に明るくしている姿からも「引き売り」と言う就労機会の提供が今後の発展を確信に変えてもらえる契機でもあります。

今後、蜜蜂が、花畑で受粉を行って蜜を持ち帰ってくるように、施設から自信を持った自主生産品を地域にお届けし、お客様の笑顔を持ち帰り明日への糧にすることをイメージし引き売り部隊「888（ミツバッチ）」としてブランド戦略化しています。

ご利用者様とそれを支えるスタッフが一丸となり、精力的に新事業を進めていきます。

今後の活躍にご期待下さい。

グループホーム事業部

GH・CH事業部に待望の看護師を配属

ボレロ世話人　鈴木（すずき）　実（みのる）

今年度、5月よりGH・CH事業部とサポートウイズ兼務で、看護師の金子さんが配属となりました。GH・CH事業部ではホームの数も増える中で、医療面の課題がありました。これまでは荻窪にある城西病院と連携をとっておりましたが、医療機関のため些細な医療相談まではできませんでした。今回、看護師が配属されたことにより医療機関との専門的な連携が可能となりました。また、GH・CHでの課題の一つである入居者全体の高齢化への支援対策にも講じてまいります。

高齢化に伴う疾病や合併症予防への取り組みも看護師が常駐することにより、いま私たちが取り組んでいる知的・精神障害分野の支援をより一層、医療的分野においても充実いたします。今後のGH・CH事業部においてはこれらの新しい取組みを糧として今まで以上に利用者様の生活向上を追求し支援できる環境づくりに取り組んで参ります。

看護師の手あての様子

サポートウイズ

居宅介護支援について

所長　八巻（やまき）　利子（としこ）

平成25年7月1日より、グループホーム・ケアホーム事業部とサポートウイズが統合し「地域包括支援事業部（仮称）」としてスタートいたします。

障害の部分では、従来通り、移動支援、重度訪問介護、同行援護をはじめ、グループホームの部分では看護師が事業所に常駐し、生活されているご利用者様の健康観察、通院状況（通院同行を含む）、服薬状況等の相談、また、怪我等をされた利用者様には医療と連携を図り簡単な処置を行えるようになりました。

また、「居宅介護支援」の部分では介護支援専門員（ケアマネージャー）が常勤でおり、行政、医療、介護、福祉用具事業者等の連絡調整を行っています。

地域で生活されている高齢者及び障害者の方々のお役に立てるよう新規事業部のスタッフ一同これからも職員一同頑張ってまいります。

事業拡張・拡充に伴い、やる気のあるスタッフを募集しています。